

## 令和元年度 第3回直方市総合教育会議次第

### 1. 開会及び閉会に関する事項

(1) 日 時 令和2年1月17日(金曜日)

開 会 15時30分

閉 会 16時10分

(2) 場 所 直方市役所 5階 第503・504会議室

### 2. 出席者及び欠席委員の氏名

#### (1) 出席者

直 方 市 長 大塚進弘

直方市教育長 山本栄司

直方市教育委員 山内 健

直方市教育委員 澁谷昌樹

直方市教育委員 中野昭子

直方市教育委員 阿部英子

#### (2) 欠席者

なし

### 3. 会議に出席した者の氏名

#### (1) 事務局

総合政策部長 大場 亨

教 育 部 長 安永由美子

市政戦略室長 坂田 剛

教育総務課長 熊井康之

学校教育課長 川原国章

こども育成課長 塩田礼子

学校教育課管理主事 大塚泰信

戦略室担当係長 鏡 隆之

#### (2) 書 記

教育総務係長 船越健児

### 4. 会議式次第

○教育総務課長（熊井康之）

ただいまより、令和元年度第3回直方市総合教育会議を開会いたします。

直方市総合教育会議運営要項の第4条より、議長は大塚市長にお願いいたします。

○直方市長（大塚進弘）

改めまして、新年あけましておめでとうございます。本会議も3回目ということで、これまで御議論いただいた中身を踏まえて、暮れには委員の皆様方に文案を送らせていただいておりますので、迅速な議事進行に御協力いただきながら、5時を目途にこの3回目の協議につきましても終わらせていただければと思っております。

また、皆様方からも忌憚のない御意見をしっかりといただきながら、教育大綱をまとめていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

それでは、事務局より、昨年末に皆様方からいただいた意見を踏まえてお送りしております案につきまして、説明をお願いします。

○教育総務課長（熊井康之）

それでは、資料に基づき説明させていただきます。まず、資料の確認でございますが、資料1、これは基本的な形と考えております。意見がわかれた部分を赤字にしております資料2。テーマとサブテーマの位置を真ん中に配置した資料3。レジюмеにはいくつかのサブテーマの案を記載して、お配りしております。昨年末にお送りしたものに細かな文言修正をしておりますので、今日配布した資料で説明させていただきます。

内容につきまして、教育を取り巻く状況ですけれども、これは国の教育振興基本計画の内容を基本としながら、地方自治体の置かれた状況などを踏まえ「人づくり」という教育大綱の根本的な考え方をもとに、前回承諾いただきました「未来を拓く」というテーマにつながる流れを記載しておるところでございます。

右面にまいりまして、教育を取り巻く状況や前回の会議で意見をいただいた市民憲章に基づき、「めざす市民像」、その市民像を目指して今後取り組む教育の「基本方針」を記載しております。

「めざす市民像」「基本方針」には、9月に行いました意見交換会と前2回の会議での意見の要素を踏まえまして、作成しているところでございます。

国の教育振興基本計画には、社会の現状や2030年度以降の変化、グローバル化、AIなどの技術革新、人口減少や幼児教育の重要性などが挙げら

れており、また、教育の普遍的な使命としまして、知識と教養とともに豊かな情操、健やかな体と自立の精神を養うこと、社会の形成や国際社会の平和に寄与すること、地域の伝統文化を受け継ぐといった内容が記載されており、この会議でも同様の趣旨のご意見をいただいたところです。

また、多様な課題を抱える家庭の子供の支援、市長も言われますSDGsの誰一人も取り残さないという部分につきましては、すべての人の幸せをかなえるという基本方針の四番目に入れておるところでございます。ここは、市民憲章にある言葉をそのまま使っています。

また、子育てについての親の教育やSDGsでも重要となります生涯学習についても多くの意見をいただきましたけれども、その分につきましては基本方針の5番目に記載しております。

今後、教育委員会事務局が教育施策要綱で定めていく具体的な取り組みを考えるにあたって、必要な要素も網羅した内容になっていると考えています。説明は、以上です。

#### ○直方市長（大塚進弘）

事務局より、これまでいただいた意見を踏まえて、お手元の資料1のような形でまとめさせていただいているということ。資料2では、教育を取り巻く状況の後段の部分に赤字で変更を加えているところもございますが、その他の部分もあわせて、改めて皆様方から御意見がございましたらお願いします。

#### ○教育長（山本栄司）

こうして見ますと、赤文字の部分ですが、確かに赤文字の文章のほうがすっきりしていいかなという気がいたします。

#### ○山内委員

私は反対で、人づくりの在り方を切り拓き、直方市民と直方市の未来を切り拓く、こちらのほうがとても意志が強く出ているという気がいたします。

進めるとともに、にすると、少し意志が弱く感じるので、切り拓くを2回繰り返すのはとてもいいなと思って読んでいたのですが。

#### ○直方市長（大塚進弘）

山内委員から、これぐらいしっかりと意思表示したほうがいいんじゃないかという御意見がございましたが、どうでしょうか。

○澁谷委員

テーマで未来を切り拓くということが全面に出ていますので、私は資料1のほうがいいかなと思います。

○直方市長（大塚進弘）

中野委員とか阿部委員はどうでしょう。

○中野委員

私も資料1がいいですね。

○直方市長（大塚進弘）

では、資料1を基本にするということで、その他、細かい点でお気づきのことがあればお出しいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○山内委員

細かいですが、「めざす市民像」の主体的に学び続ける意欲や態度を身につけ、これだと文章が長いと思います。前段の意欲や態度を身につけについては、態度は身につけるけど、意欲は身につけるものかと問われたら、身につけるという表現では意欲も態度もカバーできないかなと思いました。むしろ、意欲と態度となると備えのほうがいいのかなと思います。

それから二つ目、多様な価値観をもち、人間が一人の個人として多様な価値観をもてるのかというのが、自分が生きていく上でもつのは、私個人としての価値観であって、さらに異なる価値観、多様な価値観を一人の人間が持てるのかということを読んだときに疑問をもったところです。多様な価値観をもつことではなくて、自分と違う価値観、異なる価値観を尊重するということではないのかなと思いました。

○直方市長（大塚進弘）

山内委員から、意欲や態度の後ろにどう言葉をつけたらすっきりするのか、備えるという言葉に変えたらどうかという御意見がありました。

②については、多様な価値観をもちという部分は、一人の人がいろんな価値観をもつはずがなくて、それぞれの多様な価値観をもった人たちとコミュニケーションをとったり、そういう人たちとの協働の中で未来を切り拓くという意味合いのことだとしたら、異なる価値観を尊重するというほうがいいのではないかとのことでした。何か御意見がありましたら。

○山内委員

多様な価値観をもった異なる文化に生きる人たちということですか。

○直方市長（大塚進弘）

本当はそうつながるべきだと思いますが、もちのあとに点を打つと切れてしまうので、山内委員が言われるような感じは受けます。

文化と価値観をどう振り分けるかということなのでしょうけれども。

○教育長（山本栄司）

すっきりと、多様な価値観を尊重し、異なるさまざまな文化に生きる人たちと協働して未来を切り拓く市民、そのぐらいがいいのではないのでしょうか。

○山内委員

主語は何かということですね。

○直方市長（大塚進弘）

めざす市民像なので、主語は少なくともどういった市民でないといけないかということになります。コミュニケーションもあえて入れなくてもというのが教育長の御意見ですが、これに変更してみてください。

○山内委員

言っていることはわかりませんね。

○教育長（山本栄司）

先ほど山内委員が言われた一番目の文章も、主体的に学び続けるの後の意欲や態度を身につけの部分で少し削って、主体的に学び続けで点を打って、身につけまでを削って、クリエイティブか創造的、自分はクリエイティブが好きですが、そして未来を切り拓く市民。このぐらい短くしてもいいのかなと思います。

○山内委員

主体的に学び続けるということは、意欲や態度が備わってということですよ。

○教育長（山本栄司）

含められるのかなと思います。

○山内委員

クリエイティブな発想というのは何でしょうか。

○教育長（山本栄司）

日本語で言えば創造的な発想。日本語の創造的な発想というよりも何かクリエイティブにしたほうが、より広い意味合いにとれそうな感じがしますので。

○山内委員

期待しているのは、何かクリエイトしていくような発想ですね。

○教育長（山本栄司）

そうです。

○直方市長（大塚進弘）

山内委員が言われるように、できるだけ意味を損なわないようにしてコンパクトにした表現だと、これぐらいでどうでしょうか。

○教育長（山本栄司）

すっきりしますね。

○直方市長（大塚進弘）

御異存がなければ、今のような形に①と②を修正ということにいたしましょうか。

○阿部委員

もとの大きなテーマが未来を拓く。確かに未来を拓くという意味を調べると未来を切り拓くと書いてありますが、切り拓くは力強さも感じる一方、明るさを余り感じないですね。未来を拓くといういいテーマがあるのに、全部切り拓く、切り拓くというのは、何か困難なイメージがしてしまいます。

ここは力強いほうがいいのでしょうか。未来を拓く市民では弱いですか。

○直方市長（大塚進弘）

前段で教育を取り巻く状況など厳しい状況がずっとありますよという話があるうえに、切りという言葉が入ると明るい感じがあまりしないということですね。

○阿部委員

明るい感じがしないので、何か切り拓く、切り拓くと続くとすごく困難な気がするんですね。

○直方市長（大塚進弘）

阿部委員が言われるのは、未来を拓く市民という形でいいのではないかと  
いうことですね。市民像なので、未来を拓く市民に変えたらどうでしょうか。

○山内委員

生きるか生き抜くかの論点と同じですよ。

○阿部委員

たくましさは感じますが。

○山内委員

未来の展望を少し持たせるようなニュアンスの方がいいということですね。

○澁谷委員

前段がちょっと暗い話が多いから、余計そうなりますね。

○中野委員

それでしたら、自立した人間として、自身の可能性を信じ、責任ある生き  
方で未来を拓く市民としたらどうでしょうか。

○直方市長（大塚進弘）

自立ということの中に責任ある生き方というのが入っていますよというな  
ら、責任ある生き方もはずしていいですね。

○教育長（山本栄司）

こちらのほうがいいですね。

○直方市長（大塚進弘）

文字面を変えてみたものを読んでみていただいて、どうですかね。本筋は  
余り外れていませんし、可能性を信じというところは明るい展望みたいなも  
のも感じるすることができます。

○教育長（山本栄司）

めざす市民像は、明るい感じのほうがいいですね。

○直方市長（大塚進弘）

阿部委員、この感じで三点目はどうでしょう。

○阿部委員

はい。明るいと思います。

○直方市長（大塚進弘）

今いただいた意見を踏まえて、市民像についてはこの三つを簡潔に整理したところでよろしいですかね。他に、基本方針等も含めまして、何か御意見がございましたら。

○教育長（山本栄司）

基本方針の一番は、文章をもうちょっと短目にできないかなと思います。一行目の頭から、さらにはのところまでを削ってしまって、その後の学問分野を超えて、知識をさまざまな状況の中で創造的に活用、ここの後ですが、活用できる力を育成する教育を目指します。学問分野を超えて、知識をさまざまな状況の中で創造的に活用できる力を育成する教育を目指します、のほうがいいのではないのでしょうか。

○直方市長（大塚進弘）

山本委員が消したらどうかという部分ですが、前段のところは前段のところまで挑戦していくという内容ですよね。ここは、消えてしまっているのかどうか。

明らかにこれから先は何が正解なのかよくわからなくて、試行錯誤しながらもいろんな課題に挑戦していかなければなりません。そういう意味では、創造的に挑戦せざるを得ないという、そうした力を持たせられるような教育を目指すことが必要なのではないのでしょうか。山本委員が言われるような形の中に全部おさめられている感じなのかどうか。

今回の教育大綱は次の教育施策とリンクしていくことを考えたときに、教育施策がこの1から5に言葉の中でもつながっていないとおかしな話になっていくと思うところもありますが、事務局としてここはどうなんでしょう。



○教育総務課長（熊井康之）

今、市長が言われました教育施策へのリンクということにつきましては、一回目の会議資料の内容になりますが、そこはつながるように考えてつけてはおります。

○直方市長（大塚進弘）

山本委員が言われたようなところを消してしまうときに、施策が後段の部分だけでいいという話になるのかどうか、若干そこだけが心配なところですが。

○教育総務課長（熊井康之）

考えてみれば、挑戦していくという部分、課題に積極的に挑戦することはどこかに入れるべきとは思いますが。それがここかということは判断しかねますが。

○教育長（山本栄司）

ここで課題に挑戦するという言葉を抜いてしまうということは、その後に出てくる知識をさまざまな状況の中で創造的に活用できるということが、挑戦するということも含んでいるということになるのかということでしょうか。確かにそこまでいうとちょっと無理があるでしょうね。やっぱり挑戦という言葉は欲しいかなと。

○山内委員

短くすることも大事だけど、ここはこのままこの表現でいったほうが良いように思います。

○教育長（山本栄司）

ただ、後ろの活用していくことができる教育を目指しますではなくて、活用できる力を育成する教育のほうが良いと思います。

○直方市長（大塚進弘）

そうしたら、今のような形で残すということで行きます。他に、2、3、4、5も含めて意見はございませんか。

特にないようでしたら、資料2の赤字のほうではなくて、資料1のほうが良いという結論なので、資料1をベースに、市民像だとか基本方針1を、いただいた意見を踏まえて変更するというところで、御異存がなければ、これを

基本的な形としていきたいと思います。また、若干修正等が出てくることもあろうかと思いますが、それにつきましては、私どものほうにお任せいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○教育長（山本栄司）

はい。

○直方市長（大塚進弘）

それでは、あとはサブテーマの案と、未来を拓くというテーマを頭に持ってきたほうがいいのか、中がいいかということですが、テーマの位置については、これから私どもがこれを外に知らしめていくときに使い方をいろいろ変えていかないといけないという意味では、状況に合わせてインパクトのある形、位置にしたらいいかということもあろうかと思っていますし、前段の教育を取り巻く環境についてもいろいろな御意見もあるなかで、一枚にまとめるとしたらこの部分を省いてまとめるだとか、さまざまなパターンがあり得ると思っています。そういった使いまわしについては、ぜひ私どものほうに御一任させていただければと思っています。

次に、サブテーマについては、三つほど案を差し上げていまして、お手元の資料1は、新しい時代をたくましく生き抜く人づくりという案を入れていますが、②、③もあわせて、御意見がございましたらよろしくお願ひします。

○山内委員

事務局から原案をいただいて、全文を読んで見たときに、サブテーマはこれだろうと思います。新しい時代をたくましく生き抜く人づくり、これを変えると全体と合わなくなってしまう。

○澁谷委員

他だと全体が変わってしまいます。

○直方市長（大塚進弘）

人づくりを叱咤激励してたくましく生きていけという話なのか、多様な生き方、多様性を認めてもいいじゃないかという話もあるのかもかもしれません。

前段の課題整理やストーリー的な流れを考えると①という感じはしますが、人づくりということを考えれば、ある程度多様性を認めながら、それぞれの可能性をしっかりと見ていければ、それはそれでいいと思います。

○澁谷委員

市民の皆さんが読まれますが、たくましく生きないといけないのかなという方もいらっしゃると思いますけれども。

○直方市長（大塚進弘）

最近、いろいろなプレッシャーの中でひきこもりみたいになってしまって、殻に閉じこもって踏み出せないといった人たちは、たくましく生きるとか言えば言うほど落ち込んでいく可能性もないわけでもないと思いますけれども、そういう意味での澁谷委員の心配だと思いますが。

○澁谷委員

文章的には、そのような感じを受けます。

○教育長（山本栄司）

そこで、明るくとかのたくましく以外の言葉を探したときに、明るく生きるとか、自分なりに生きるとかいうことは、それもたくましくの中ということになるのかなと。そういったことを一番うまくあらわしているのは、たくましくということになるのかなと思います。

○直方市長（大塚進弘）

我が市のサブテーマは、①の形でいこうということによろしいですかね。

○中野委員

はい。たくましさが必要だと思いますので。

○直方市長（大塚進弘）

では、未来を拓くの下に、サブテーマとして新しい時代をたくましく生き抜く人づくりという形で整理をしたいと思います。

それでは、画面上で変更を加えた形で、教育大綱とさせていただきたいと思います。

文言は、若干修正部分が必要な分もあるかもしれませんが、それはお任せさせていただきたいと思います。今回は最後になるかと思いますが、全体をとおしてでも構いませんので、この辺はちょっと懸念があるなということがあれば、ご意見をいただきたいと思います。よろしいですかね。

○教育長（山本栄司）

はい。

○直方市長（大塚進弘）

最終的な整理といたしまして、めざす市民像と基本方針のところは先ほどいただいた意見で修正するとして、資料1をベースとして、直方市教育大綱、未来を拓く、その下にサブテーマが入って、教育を取り巻く状況、めざす市民像という形のレイアウトで、テーマの位置といったところの使い分けはこちらのほうに任せていただいて、コンパクトにするときには取り巻く状況を整理して使わせていただくということにしていきたいと思えます。よろしいですか。

○教育長（山本栄司）

はい。

○直方市長（大塚進弘）

ありがとうございました。皆様方、3回にわたっていろいろ御意見をいただく中で、直方市教育大綱の最終形がほぼ固まりました。

今後の進め方につきまして、事務局お願いします。

○教育総務課長（熊井康之）

議事の（2）の教育大綱の公表について、説明させていただきます。

市長からございましたとおり、修正とともに微調整をこちらでさせていただきました。教育委員の皆様には2月12日の定例教育委員会で、最終形を御報告させていただきたいと思えます。

今年度中に市議会にも報告いたしまして、市報、ホームページにも掲載し、市民に周知してまいりたいと思っております。以上です。

○直方市長（大塚進弘）

教育委員会での報告後、教育委員会として、これからの直方市の教育の展望的な形、基本的な指針でございます新しい教育大綱をしっかりと踏まえた教育施策を展開していただくようお願いいたします。

以上をもちまして、令和元年度の総合教育会議は終わらせていただきますが、これから先も、さまざまな課題について、市長部局と教育委員会がしっかりとした議論を重ねながら、直方市の人づくりを進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくようお願いいたします。

○教育総務課長（熊井康之）

以上で令和元年度の直方市総合教育会議を閉会いたします。  
ありがとうございました。

上記のとおり直方市教育委員会会議規則第13条及び第14条の規定により会議録を作成した。

直方市長

大塚 進弘